科目ナンバリング	U-LAS70 10001 SJ50						
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー ：研究思考による課題解決 ILAS Seminar : Problem solving through research mind			担当者所属 職名・氏名	農学研究科　教授　　佐々木　努		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2025・前期	受講定員 (1回生定員)	10 (10) 人	配当学年	１回生	対象学生	全学向
曜時限	火5	教室	農学部総合館（W414）(北部構内)			使用言語	日本語
キーワード	コミュニケーション / 問題分析 / 創造的思考 / 行動力 / リーダーシップ						

[授業の概要・目的]

研究とは、世の中にまだ答えがない課題を解くことです。自然科学研究に用いる思考法は、様々な課題解決に活用できます。そこで本セミナーでは、講義と演習を通して研究思考の訓練を行い、まだ答えがない課題を解いていく練習を行います。

自然科学研究では、問題を分析して課題を抽出し、様々なアイデアを出して、結果が出るまで試行錯誤を繰り返します。そして、自分一人で解決できない時に、他者の協力を引き出すためにコミュニケーションを取り、皆のエフォートを目標に向けてまとめていくリーダーシップを発揮して、「世界初」を目指します。

この「コミュニケーション、問題分析、創造的思考、行動力、リーダーシップ」という５つのスキルは、自然科学研究にとどまらず、どの分野にも適応可能です。今後の学生生活や卒後の社会生活全般において活用できるこれらのスキル・概念を、受講生に修得してもらうことを目的としています。

そこで本セミナーでは、これらの５つのスキルについて、講義と演習を通して学びます（実験は行いません）。自分が解消したい課題や身近な困りごとなど、各自が主体的に設定するテーマに対して、各回で学んだスキルを適用して練習してもらいます。問いのない答えを解くために、自然科学研究の思考法を活用したいは、理系・文系を問わず歓迎します。

[到達目標]

研究思考に必要な各スキルの概要を理解する。
課題を主体的に解決するために必要な考え方を養う。
様々な課題に対して、あらゆる角度から考察し、建設的に議論できるようになる。

[授業計画と内容]

テーマA～Dは、初回は情報提供、2・3回目は学生発表に基づくディスカッションを行います。最後のテーマEは、情報提供のみとします。
最終回は、全体の総括としてフリーディスカッションを行います。

（A）コミュニケーション【3回】
伝え方（聞き手の意識、分かるとは、分かってもらうための準備）
聞き方（聞き方の意義と種類、尋ね方）

（B）分析法【3回】
問題解決の過程（課題発見、情報の収集と吟味、分析、仮説構築）

（C）創造性【3回】
創造のプロセス、必要な要素、セレンディピティ

ILASセミナー ：研究思考による課題解決(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー ：研究思考による課題解決(2)

（D）行動力【3回】
モチベーションの種類、目標設定、始める準備、やり抜くコツと捉え方

（E）リーダーシップ【1回】
模範的リーダーシップ5つのポイント、リーダーへと成長するためのステップ

（F）総括【1回】
A～Eのセッションで出てきた課題に対するフリーディスカッション

（G）フィードバック【1回】

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

出席したうえでのディスカッションへの積極的な参加（60点）およびプレゼン内容（各10点ｘ4回＝40点）により評価する。

[教科書]

教科書は指定しない。
各テーマの初回に配布するプリントを資料として、セミナーを進める。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する
各テーマの講義の際に、参考文献の情報を適宜提供する予定です。

[授業外学修（予習・復習）等]

各テーマの講義前の予習は不要です。各テーマの情報提供の後に、他の人たちとのディスカッションの題材となる発表を準備してもらいます。
また、学んだことを身につけるために、自主的な復習を「自学自習」の一環として推奨します。

[その他（オフィスアワー等）]

オフィスアワーは適宜とする（担当教員のスケジュールが流動的なため）
連絡方法は、メールを想定しています。

提供された情報を、各自が興味がある題材に対して用いて、発表・質疑をたくさん行うゼミです。
他の参加者の発表内容に対しても、積極的にディスカッションする意欲のある人を歓迎します。

発表は、PowerPointを準備してもらいます。

[主要授業科目（学部・学科名）]